

社会と経済の流動化によるリスク

佐藤 光 CMA

(証券アナリストジャーナル編集委員会委員)

「VUCA」(変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の四つの単語の頭文字)は、やや使い古された言葉だが、足元の世界を見渡すと、これを実感するような事態が相次いでいる。

2024年には、欧米主要国をはじめとして、世界各国で国政レベルの選挙が相次いだ。世界のGDPや人口のおよそ半数を占める国や地域が対象となったといわれ、まれにみる「選挙の年」だった。その結果、政治体制が流動化した例も少なくない。

加えて、近年の国際情勢については、ウクライナ問題をはじめとして、先行きが見通しにくい地政学リスクが山積している。地域的な紛争の長期化や激化は、サプライチェーンや人口移動の変化なども通じて、世界全体に影響している。

不透明な状況は、マーケットでも同様だ。中でも、外国人投資家の売買シェアが高く、世界経済の変化に敏感とされる日本市場では、株価や為替の乱高下に肝を冷やす場面が増えている。

一般的に、世界経済や社会の行方について考えるとき、思考の一つの軸となるのはコンセンサスだろう。しかし、不透明感が強く、コンセンサスの成立すら危ういのならば、可能性のある複数の選択肢を前もって考えておく必要がある。

そこで本稿では、ビジネスの三大要素ともいわ

れるヒト・モノ(とサービス)・カネの三つの視点から、近年みられる世界の経済・社会の流動化を概観し、その背景に迫るとともに、今後に発生し得る選択肢や警戒すべきリスクなど取り上げる。

1. ヒトの流動化

世界的な世論の細分化と分断の進行

まずこの章では、変化する人々の意識や考え方や、その集合体としての政治体制、さらに国家間の関係の流動化などに着目する。

近年では、社会の様々な局面で多様性の確保が重要視されている。その一方で、国内外で世論の細分化が進み、一定の共通認識を前提とした議論をするのが難しい状況だ。社会全体においても「最大多数の最大幸福」という概念は薄れつつあり、人それぞれが独自に幸福を追求するようになってきた。

米大統領選挙や各国での選挙結果にも現れているように、「民意」も分裂の度を深めている。総合的、体系的に政策を提示することで幅広く支持を集めることを競ってきた既存政党の存在感が薄くなる一方で、ワンイシューごとの政策、あるいは極端に振り切った政策を掲げる新規政党が台頭し、一定の支持を得ている。しかし、このような